

## 家 庭

### 1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

#### (1) 改善の方向性

##### ア 現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会答申では、職業学科における課題を次のように整理している。

- ・ 科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術の変化や高度化への対応
- ・ 専門的な知識・技術の定着
- ・ 多様な課題に対応できる課題解決能力の育成
- ・ 産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動のより一層の充実
- ・ 大学等との接続など、生徒の進路の多様化への対応

##### イ 課題を踏まえた専門教科「家庭」の目標の在り方

生活産業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、生活産業を通じ、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 生活産業について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
- ② 生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
- ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

これらを構成する要素のうち、例えば、「倫理観」や「合理的」等は、従来、学習指導要領において明示されてきた重要な要素である。一方で、「職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学ぶ」、「協働的に取り組む」は、社会や産業における新たな課題の解決に向けて多くの人と協力して挑戦し粘り強く学び続けることや、広い視野でよりよい社会の構築に取り組むことが重要であることから新たに明示された。

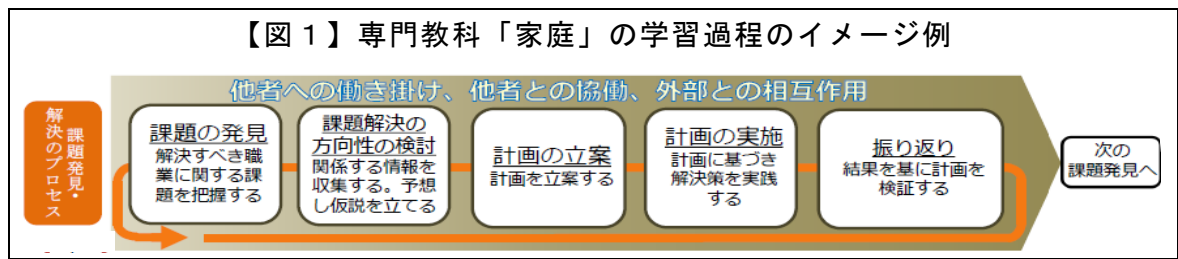
##### ウ 専門教科「家庭」における「見方・考え方」

衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けた教科指導が重要である。

#### (2) 具体的な改善事項

##### ア 教育課程の示し方の改善～資質・能力を育成する学びの過程についての考え方～

資質・能力の三つの柱である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を育成するためには、具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められる。学習過程のイメージの例は【図1】のとおりである。



## イ 教育内容の改善・充実及び科目構成の方向性

社会や産業の変化の状況等や学校における指導の実情を踏まえ、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化への対応などの視点から改善を図ることが求められている。

専門教科「家庭」においては、少子高齢化、食育の推進や専門性の高い調理師養成、価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応などを踏まえ、生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る必要がある。

また、科目構成の方向性については、次のとおりである。

(ア) 食育の推進等、食に関する学習の充実

(イ) 子供の発達や地域の子育て支援に関する学習の充実

(ウ) 高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習の充実

(エ) 複雑化する経済社会や消費生活の理解に関する学習の充実

(オ) 生活文化の伝承・創造に関する学習の充実

(カ) 職業人としてのマネジメント能力の育成に関する学習の充実

## ウ 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

(ア) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

専門教科「家庭」における「主体的・対話的で深い学び」の例を示す。

○ 知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実践的・体験的な学び【主体的な学び】

○ 生活産業の意義やその社会的役割、職業や関連する資格について理解し、課題を発見するために具体的な事例を取り上げた考察や討論などの学び【対話的な学び】

○ マネジメント能力や想像力を育成するために、産業界等との協働による商品開発や企画・提案などの学び【対話的な学び、深い学び】

○ 職業人として家庭と地域の生活を豊かに支える視点から、地域との連携を一層深める学び（学校家庭クラブ活動等）【対話的な学び、深い学び】

(イ) 教育環境の充実

教育環境の充実としては、産業界等との連携、中学校や大学等との接続、教員研修等の充実、実験・実習の環境整備が重要であり、特に産業教育フェア等の取組により、中学生の主体的な進路選択に資することで、専門教科「家庭」の学習に対する理解・関心を高めることが大切である。

## 2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

### (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践例～専門科目「服飾手芸」における取組について～

「服飾手芸」では手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てることを目標としている。すなわち、各種手芸の技法を活用して、生徒が創造力を働かせて手芸品を製作し、ファッションデザインやファッション造形に実際に生かすことができるような能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。ここでは、基礎となる技法を習得するために、「服飾手芸」の導入として全国高等学校家庭科被服製作技術検定4級を活用し、深い学びにつなげた実践例を示す。

#### ア 単元「服飾材料としての各種手芸の技法」の目標

家庭科被服製作技術検定4級の題材「基礎縫い」を通して、各種手芸に必要な材料と用具、デザイン、基礎的な技法、仕上げについての知識と技術を習得させる。

#### イ 単元の指導と評価の計画

時間	指導内容	学習活動	評価規準	指導上の留意点
1 1	・学習内容の確認 ・手縫いの基礎	・なみ縫い、半返し縫い、まつり縫い、ボタン付けの方法を理解し、行う。	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・具体的な目標を持って意欲的に取り組もうとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> ・製作手順を考えながら効率よく製作を行っている。 ・巾着袋に仕上げる際に創意工夫をしている。	・技術が未熟な生徒には見本を示しながら個別指導を行う。進度が早い生徒には、お互いに教え合うように声かけをする。 ・基礎縫い後、巾着袋に仕上げた形をイメージできるようにする。
1	・ミシン縫いの基礎	・直線、角、曲線を正しく縫い、糸の始末の方法を理解し、行う。	<b>【技能】</b> ・基礎縫いの技法を理解し正しく行うことができる。	・アイロン、ミシンなど道具類の安全で適切な取扱いについて留意する。
1	・検定実施	・制限時間内に完成させる。	<b>【知識・理解】</b> ・製作のために必要な基礎的・基本的知識を身に付けている。	・なみ縫い、半返し縫いの練習布はピンクッションに活用する。
2	・事後作業	・糸の始末をし、アイロンがけで整える。 ・基礎縫いで使用した布を巾着袋に仕上げる。		

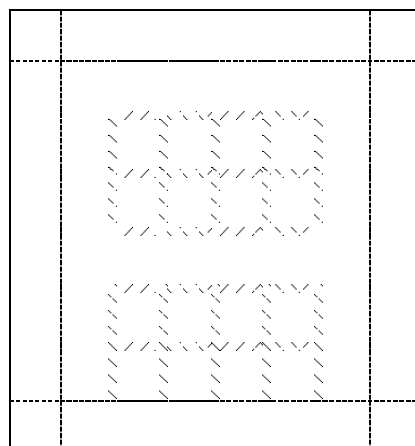
#### ウ 「基礎縫い」の評価基準

家庭科被服製作技術検定4級は、ミシン操作、布地の基本的な扱いが分かり、ミシン縫いと手縫いの「基礎縫い」についての実技試験を行うものである。ここでは、本検定を参考に、「基礎縫い」の評価基準を示す。表中の評価Aは、「評価事項欄の項目についてできばえがよい」、評価Bは、「評価事項欄の項目について技術の習熟に今一步のできばえである」、評価Cは、「評価事項欄の項目について著しくできばえが悪い」ことを表す。

観点	標準	評価事項	評価
ミシン縫い	・直線、曲線、角が指示どおりに縫えている。 ・返し縫いができる。	・ミシンの扱い方を理解し、糸調子や針目の調節ができる。 <b>【技】 【知・理】</b> ・図案どおりに縫えている。 <b>【技】</b> ・縫い代の始末がよい。 <b>【技】</b>	A B C
手縫い	・なみ縫い、半返し縫い、まつり縫い、ボタン付けができる。	・針目の大きさが指示どおりにできている。 <b>【技】</b> ・始めと終わりの玉止めが適切である。 <b>【技】</b> ・糸こきがよい。 <b>【技】</b> ・ボタン付けで遊び糸、もつれ糸がなくしっかり付いている。 <b>【技】</b>	A B C
できばえ	・全体のできばえがよい。	・折り方、折り幅が適切である。 <b>【技】</b> ・糸の始末がよい。 <b>【技】</b> ・アイロンがけがよく丁寧に仕上げている。 <b>【技】 【知・理】</b>	A B C
事後作業	・巾着袋に仕上げている。	・手芸の技法を取り入れた作品に仕上げている。 <b>【思・判・表】 【技】</b>	A B C

## 【なみ縫い、半返し縫いの練習】

- ① 縦横 30cm の布に 1.5cm 間隔で線を引く。



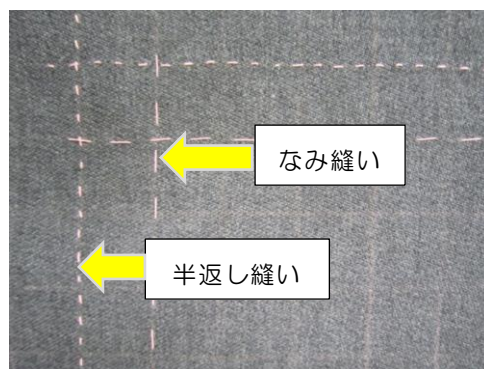
- ② 外側は 2mm の間隔になるように半返し縫い、内側の残り全てを縦横 4mm 間隔でなみ縫いをする。

### ※半返し縫い

- ・ 2mm 戻って、6mm 先に針を出す。

### ※なみ縫い

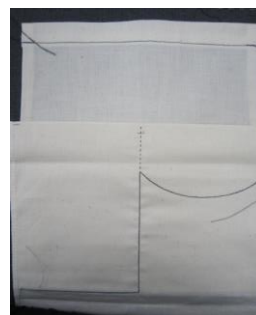
- ・ 4mm 間隔でリズムカルに縫う。
- ・ 縫い始めと終わりは玉止めをする。
- ・ 糸こきをする。



- ③ この練習布を活用し、今後の授業で使うピンクッションを製作する。

## エ 「主体的・対話的で深い学び」について

生徒は、練習布を使用してなみ縫い、半返し縫いの基礎を身に付けた後、被服製作技術検定4級の題材に取り組む。検定後の布は巾着袋に仕上げる。(主体的な学び)そこで個性を表現した作品になるように、これまでの知識を相互に関連付けて創意工夫を凝らすことにより深い学びにつなげることができ、次の服飾手芸の製作の実践にも生かすことができる。



【4級題材「基礎縫い」を終えた状態】

## (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実践例～専門科目「ファッション造形基礎」における取組について～

「ファッション造形基礎」では被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得させ、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てることを目標としている。ここでは、被服製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するために生徒の主体的・対話的な学びにつながる取組として、全国高等学校家庭科被服製作技術検定3級を活用した実践例を示す。

ここで取り扱うアウターパンツは、次の段階である家庭科被服製作技術検定2級和服で製作する大人用じんべいとセットアップにすることができる。そのため、生徒はセットアップにすることを見通した材料の選択を行うことで、主体的に製作活動に取り組む

意欲につなげることができる。

ア 単元「洋服製作の基礎」の目標

家庭科被服製作技術検定3級の題材「アウターパンツ」の製作を通して、洋服製作の基礎的な知識と技術を習得させる。

イ 単元の指導と評価の計画

時間	指導内容	学習活動	評価規準	指導上の留意点
1	・学習内容の確認 ・採寸	・身体寸法と採寸方法について理解し、行う。	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・具体的な目標を持って意欲的に取り組もうとしている。	・技術が未熟な生徒には見本を示しながら個別指導を行う。
1	・型紙の基本	・平面製図を行う。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・製作手順を考えながら効率よく製作を行っている。	・進度が早い生徒にはお互いに教え合うように声がけをする。
2	・用布の裁断	・布地の性質と扱い方、布目方向の見分け方や布地の特徴を理解し、裁断、印付けを行う。	<b>【技能】</b> ・アウターパンツを製作することができる。	・立体構成をイメージできるようにする。
8	・縫製	・基本的な縫い方を理解する。	<b>【知識・理解】</b> ・製作のために必要な基礎的・基本的知識を身に付けている。	・アイロン、ミシンなど道具類の安全で適切な取扱いについて留意する。
2	・仕上げ			

ウ 「アウターパンツ」の評価基準

家庭科被服製作技術検定3級は、立体構成に関する基礎的な知識・技術を持ち、簡単な衣服を製作することについて、実技試験と筆記試験を行うものである。

エ 「主体的・対話的で深い学び」について

「平成27年度高等学校教育課程編成・実施の手引」の専門教科「家庭」に示したアウターパンツの評価基準に従い、生徒同士による相互評価を行う。相互評価を行うには、【図2】相互評価表を用いることとし、評価する際にポイントとなった点を記入させるだけでなく、お互いに意見交換できるように表現の参考例も示して、多様な生徒へ配慮することが大切である。（対話的な学び）

また、1(2)ウ(ア)に示したように、専門教科「家庭」における「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、家庭科被服製作技術検定の内容を活用しながら、実践的・体験的な学びを通して、知識や技術を身に付けるとともに、(主体的な学び)科学的な根拠を踏まえた考察や討論を行わせる事が大切である。さらに生徒相互の人間関係づくりを深めるためにも、教え合う、伝え合うという学習形態に結び付くよう、相互評価表を工夫することが重要である。（対話的な学び）

【図2】相互評価表

3級検定アウターパンツの相互評価の仕方 ～完成した作品を交換して評価しあおう～

1 次の評価ポイントにそって、A(よい) B(ふつう) C(よくない) で評価しましょう

チェック項目	評価ポイント
ポケットの付け方	口止めミシンのかけ方はどうか
また上の縫い方	重ね縫いの仕方はどうか、なだらかになっているか
ウエストの縫い方	折り幅がそろっているか、縫う位置がそろっているか、ゴム通し口が始末されているか
すそ	折り幅がそろっているか、2mm内側が縫われているか

2 評価したことを言葉で伝えましょう。例を参考にして【 】の部分は評価したポイントを表現しましょう。これはあくまでも作品の評価です。

例) ポケットは、【口止めのところが左右でずれているので、よくないと思います。また上は【重ね縫いがされていますが、すこしずれていたもので、ふつうです。ウエスト部分は【折り幅がそろっていて、縫う位置もそろっていて、とてもよいです。

3 作品の評価から、自分にはできていなかった部分を教えてもらったり、相手のよい部分などをさらに伝え合いましょう。(布選びや全体のできばえなどにも注目しましょう)

.....

相互評価表 年 組 氏名  
( ) さんの評価

1

チェック項目	評価ポイント	評価 (ABC)
ポケットの付け方	口止めミシンのかけ方はどうか	
また上の縫い方	重ね縫いの仕方はどうか、なだらかになっているか	
ウエストの縫い方	折り幅がそろっているか、縫う位置がそろっているか、ゴム通し口が始末されているか	
すそ	折り幅がそろっているか、2mm内側が縫われているか	

2

3



【アウターパンツ作品例】



【じんべい作品例】



【セットアップにした例】

**Topic**

**平成 28・29 年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校  
(専門教科「家庭」) 【名寄産業高等学校】**

〈研究主題〉

地域の生活産業に関する消費者ニーズを把握し、必要な商品を企画する取組や、他学科及び大学と連携し、快適な住空間などを計画する取組等を通じて、生徒の主体性を育み、創造的な能力と実践的な態度を育てる指導方法及び評価方法の工夫改善を図る実践研究

以下に、「リビングデザイン」の授業で生徒に示す「発表と記録に関するルーブリック」を紹介する。

科目名	リビングデザイン
単元名	(2) 住空間の構成と計画
単元の目標	住宅展示場を見学し、住宅の課題に対する改善策を立案し発表することを通して、より快適な住空間について検討し、表現する力を身に付ける。

**リビングデザイン～発表と記録に関するルーブリック～(旭川住宅展示場編)**

今回の発表と記録については、以下のルーブリックをあげました。

ルーブリックは、この授業で特に身に付けてほしい力を示しています！！

聞いてくれる人に伝わるように自分達の班の取組を丁寧に発表し、記録しましょう

評価項目	S	A	B	C
	期待する以上に達成できている	達成できている	概ね達成できている	努力を要する
発表	自分達の発表内容を項目ごとに整理し、要点を強調して聞き手が聞きやすいように原稿を見ずに伝え、聞き手の反応を見ながら、より伝わりやすい工夫をして発表することができる。	自分達の発表内容を整理し、要点を強調して原稿を時々見ながらも聞き手が聞きやすいように努力をして発表することができる。	自分達の発表内容を概ね整理し要点を伝え、原稿を見てはいるが、自分達の班の内容を伝える努力をし、発表を終えることができる。	自分達の発表内容を概ね整理し、原稿を見ながらも発表を終えることができる。
記録	各班の発表に対して、特徴・キーワードを適切に記入し、改善策等、今後の授業への取組について具体的にまとめることができる。	各班の発表に対して、特徴・キーワードを記入し、改善策等、今後の授業への取組についてまとめることができる。	各班の発表に対して、特徴・キーワードを概ね記入し、改善策等、今後の授業への取組について記入する努力をしている。	各班の発表に対して、特徴・キーワードを少し記入することはできるが、改善策等、今後の授業への取組について記入することができない。